

令和元年度 学校評価アンケート結果の分析について

大沼高等学校学校評価委員会

○今年度の学校評価アンケート及び分析にあたって

設問内容については昨年一部改正したもの今年度は継続して実施した。また、結果及びその分析については昨年同様に本校のホームページにおいて公開するものとする。

今年度の保護者からのアンケート回収率は88.9%であった。昨年度実績の71.5%から17.4%も改善した。このことは各クラス担任が中心となって生徒を通じて保護者への回答の協力を繰り返し依頼したことが奏功したと考えられる。なお、生徒からの回答率は99.6%、教員は100%であった。

1 結果概要

全18設問項目のうち、a・bを合わせた肯定的評価が80%以上となった項目は以下のとおりである。

(H30年度比の項目数の増減については±で表示している。)

①生徒・保護者・教職員すべてで80%以上・・・8項目 (Q1,4,6,8,11,12,14,16)	+4項目
②生徒・教職員で80%以上・・・・・・・・・・・・・1項目 (Q9)	±0項目
③保護者・教職員で80%以上・・・・・・・・・・・・・2項目 (Q2,15)	-1項目
④生徒のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・0項目	±0項目
⑤保護者のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・0項目	±0項目
⑥教職員のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・4項目 (Q7,13,17,18)	-2項目

生徒と保護者いずれかから肯定的な評価を得たものは18項目中11項目に及び、昨年度より2項目プラスとなった。このことは昨年度に増して本校の教育活動について高い評価を得られたものと考えられる。一昨年度の6項目から昨年9項目、今年度11項目と年々評価が向上している。

一方、昨年、教職員から80%以上の肯定的評価があった項目のうち、1項目において今年度は80%に達していないものがあった。(Q3)

2 学校経営・運営ビジョンとの関連

本校の教育活動の基本方針である学校経営・運営ビジョンに直接関係ある設問、Q1「本校『個々に生きぬく力を育み地域社会を支える人材を育てる学校』だと思ふ』では生徒83.0%、保護者87.9%、教職員88.5%が肯定的評価だった。昨年度比、生徒+13.7%、保護者+1.9%といずれも数値が向上した。特に一昨年度と昨年度は70%にも届いていなかった生徒からの評価が大幅に向上した。このことの大きな要因は今年度から1,2学年を対象に地域探究活動を中心とした総合的な探究の時間を本格的に開始したことがあると考えられる。また3学年の生徒にとっても進路実現に向けた指導において、学年を超え、教職員全体で取り組む体制を整えたことで、学校経営・運営ビジョンの方針のもと本校の取り組みがより生徒にも伝わったものと考えられる。

3 質問項目と校務分掌上の関連

アンケートの各質問項目と各校務分掌上の関連については以下のとおりである。

●：直接的な関連あり ○：間接的な関連あり ◎：教科、委員会により関連あり

校務分掌 \ Q	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
H R	●		●	●	○	●	●	●	○	○	●	○	●	●	●			○
教科	●	●	●	●	◎	○	○	◎			◎		○					
教務部	●	●	●	●			○				○						○	
生徒指導部	●			○		●	●		○	●	●	○	○	●	○		○	
進路指導部	●			○	○	○	○	●					○				○	
総務部	●					○			○		●	○	●	○			●	●
保健厚生部	●			○		○	○						○	●	●			
図書部	●		○	○	○			○								●		
委員会	●			○	◎				◎			◎					◎	

4 各項目の分析（回答から読み取れるもの：単年度）

肯定的評価が比較的低かった質問項目は以下のとおりである。

(1) 生徒からの肯定的評価が低かったもの（肯定的評価75%未満）

Q7 「本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている」 74.3%

Q10 「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」 72.9%

Q13 「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」 66.4%

(2) 保護者からの肯定的評価が低かったもの（肯定的評価75%未満）

Q3 「本校は、適切な課題を与え、自学自習の習慣が身につくように指導している」 71.2%

Q5 「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」 71.8%

Q9 「本校は、ボランティア活動を奨励している」 69.8%

Q10 「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」 72.0%

Q13 「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」 57.5%

Q17 「本校は、広報誌やホームページ等を通して適切に情報提供を行っている」 72.0%

(3) 教職員からの肯定的評価が低かったもの（肯定的評価80%未満）

Q2 「本校は、生徒の理解に応じた授業を行っている」 79.4%

Q3 「本校は、適切な課題を与え、自学自習の習慣が身につくよう指導している」 78.1%

Q5 「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」 61.5%

Q10 「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」 61.5%

Q10「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」については、生徒、保護者、教職員の三者とも肯定的評価が低かった（75%未満）。生徒数の減少に伴って野球部やサッカー部、バスケッ

トボール部などは本校単独でチームを構成することができないことや、年々部活動加入率が低下していることなどがその要因と考えられる。また2クラス学級完成年度に合わせて部の再編（廃部、休部を含む）も進行中であり、こうしたことから部活動の活性化については難しい状況ではある。しかしながら一部に部活動に一所懸命取り組んでいきたいと思っている生徒もおり、そうした生徒の頑張りに部顧問を中心に誠心誠意応え、他の生徒のやる気も少しずつ引き出していければと考える。

Q5「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」については、保護者、教職員で肯定的評価が低く（75%未満）、生徒の評価も80%未満となった項目である。昨年も比較的评价の低い項目であった。本校では英語検定、数学検定、情報処理検定等を推奨しているが、なかなか受験者を増やすことができていない。今後も各検定試験への積極的な受験を促すとともに、検定試験の意義や魅力について折を見て生徒に伝えていかなければならない。なお、英語検定については、新大学入試制度の民間検定試験導入を見据えて、今後進学を希望する生徒を中心に計画的に受験を促していくことになっている。

Q3「本校は、適切な課題を与え、自学自習の習慣が身につくように指導している」については生徒で肯定的評価が低く（75%未満）、保護者、教員でも肯定的評価が80%に届かなかった。この結果は未だに生徒の家庭学習の習慣化が不十分であるとそれぞれが考えているということであろう。昨年度から各生徒にスケジュール手帳を活用させ、学習や学校生活を計画的に過ごすように進路指導部や学年を中心に指導しているが、生徒が家庭学習を習慣化するところまで十分には至っていない。昨年度の反省でも述べたが、単に課題の内容を吟味するだけでなく、その課題が学校での学びと有機的に結びつき、生徒にとってやりがいのあるものになるように継続的な工夫を続けていく必要がある。

Q13「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」については生徒、保護者での評価が非常に低かった（生徒66.4%、保護者57.5%）。対して教員は96.2%と家庭と学校との間で大きな乖離が見られる。日常、学校から家庭への情報伝達は生徒を通じて文書の形で行われるが、それが十分に行き渡っていないことが考えられる。定期的に文書を郵送するなど工夫している学年もあるが、クラス担任を中心に粘り強く生徒を指導し、家庭との密な連絡体制を整えていく必要がある。

Q7「本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている」については生徒での肯定的評価が低かった（75%未満）。一方、教員の肯定的評価は100%であり、ここに大きな乖離が見られる。昨年度、この設問についても同様の傾向が見られた。生徒相談は本校において最重要な教育活動の一つである。教員側は努力しているが、生徒にとってはもっと相談したいことがあり、それがなかなか切り出せないという状況があると思われる。現状よりもっと生徒が悩みを相談しやすい雰囲気や仕組みづくりを目指していかなければならない。

Q17「本校は、広報誌やホームページ等を通して適切に情報提供を行っている」については保護者の評価が72.0%と低かった。ホームページを活用してもっと積極的に学校の情報を発信してほしいという保護者の希望が読み取れる。

5 各項目の分析（昨年度との比較）

昨年度との比較で評価が下がった設問項目は以下のとおりである。（-10%以下）

生徒 なし

保護者

Q11「本校は、文化祭、球技大会、強歩大会などの学校行事を充実させている」－15.0%

教員

Q5「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」－17.1%

Q10「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」－13.5%

Q15「本校は、校内の清掃に力を入れ、環境美化に努めている」－15.6%

Q18「本校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる」－11.8%

保護者による学校行事への回答について、学校行事の計画は例年通りであるが、今年度は5月の特別な連休や熱中症対策のために、1学期に行われていた強歩大会と球技大会を秋以降の実施としたことが影響していると考えられる。

教員の回答で肯定的評価が低下した項目のQ5、Q10については上で述べたとおりである。Q18に関連して今年度のPTA総会の出席率は30%に届かなかった。5月の特別な連休のために、一部中学校の総会と日程が重なってしまったこともあり、例年以上に保護者の参加が少なかった。

昨年度との比較で評価が上がった設問項目以下のとおりである。(＋10%以上)

生徒

Q1「本校は、「個々の生きぬく力を育み地域社会を支える人材を育てる学校」だと思う」13.7%

Q3「本校は、適切な課題を与え、自学自習の習慣が身につくよう指導している」13.8%

Q4「本校は、コミュニケーション能力を高め、自分の意見をはっきりと述べるができるよう指導をしている」18.0%

Q5「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」15.2%

Q7「本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている」16.1%

Q13「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」14.4%

Q17「本校は、広報誌やホームページ等を通して適切に情報提供を行っている」10.6%

保護者

Q5「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」16.1%

教員 なし

Q3、5、7、13については肯定的評価の低かったものとして上で述べたとおりであるが、生徒からの評価は昨年度比で改善されている。

Q1、4については今年度から1、2学年対象にした総合的な探究の時間において指導の柱になっているもので、学習の項目に具体的に盛り込まれているため生徒には実感しやすく、数値にも反映されたものと思われる。